

■-----
フューチャー・アース国際本部事務局 日本コンソーシアムからのお知らせ
-----■

日本学術会議が代表を務める「フューチャー・アース国際本部事務局日本コンソーシアム」は、5月12日、フューチャー・アース国際本部事務局日本ハブ事務局長(*) (英文正式呼称では、グローバルハブディレクター - 東京) を公募しておりましたが、選考の結果、日本学術会議連携会員 (会長アドバイザー、前副会長) であり、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長の春日文子氏を指名することになりました。

(*春日氏の当初の任期は、2016年3月末日までです。)

国際本部事務局を担う5ヶ国間の申し合わせに従い、選考にはフューチャー・アース事務局長 Paul Shrivastava 氏も参加し、春日氏の指名はフューチャー・アース評議会 (ガバニング・カウンスル) の事実上の了承も得ています。

本決定により、フューチャー・アースに対する日本の貢献が、より促進されることが期待されます。

(English announcement)

The Japan Consortium for Future Earth, which is led by Science Council of Japan (SCJ) and is supporting the Global Hub - Tokyo of the Future Earth Global (Permanent) Secretariat, announced on 12th of May, 2015 that it appointed Dr. Fumiko Kasuga as the Future Earth Global Hub Director in Tokyo after selection committee.

She is a Director at National Institute of Health Sciences, as well as a member of Science Council of Japan (Advisor to the President of SCJ, former Vice-President).

* Her initial term will be ended on March 31, 2016.

According to an agreement among five Global Hubs, Professor Paul Shrivastava, Executive Director of Future Earth had joined the selection process. Her appointment was also has been endorsed by Future Earth Governing Council.

The Japan Consortium expects this decision would facilitate Japan's

contribution to Future Earth smoother than before.

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）

(Tel: 03-3403-5731、 Mail:future-earth@cao.go.jp)

★-----☆

=====*

* 日本学術会議ニュース・メール ** No.491 ** 2015/5/14

=====

■-----

日本学術会議主催学術フォーラム「われわれはどこに住めばよいのか？～地図を作り、読み、災害から身を守る～」の開催について（ご案内）

-----■

- ・日時 平成 27 年 6 月 20 日(土)13:00～17:00
- ・場所 日本学術会議講堂
- ・主催 日本学術会議
- ・後援 日本地球惑星科学連合、地理学連携機構
- ・開催趣旨

東日本大震災発災から 4 年余り過ぎましたが、大きな痛みは続き、復興は未だ道半ばです。現代の科学技術でこのような大災害をなくすことはできません。しかし、災害についてよく知ることにより、被害を軽減することはできます。地形図や地質図、ハザードマップなどにはそのための情報が詰まっています。どんな地図情報があり、それからどう災害リスクを読み取ればよいか、また人々が自ら地図を作ったり活用したりして災害から身を守る社会はどうしたら実現できるかなどを、地球人間圏科学的視点から考えます。

・次 第

総合司会

鬼頭 昭雄（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系主幹研究員）

13:00-13:10 開会の挨拶、趣旨説明

氷見山 幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

13:10-13:30 「堆積物が教えてくれる大津波の痕跡」

佐竹 健治（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

13:30-13:50 「火山と共存する日本人が向き合う災害」

中田 節也（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

13:50-14:10 「地域の災害特性を地理院地図で理解する」

宇根 寛 (国土交通省国土地理院企画部地理空間情報活用推進分析官)

14:10-14:30 「災害リスク管理のための地質地盤情報の共有化ー忘れられた国土情報」

佃 榮吉 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所理事)

(休憩)

14:40-15:00 「分かりやすいハザードマップを作るための要件とは？」

森田 喬 (日本学術会議連携会員、法政大学デザイン工学部教授)

15:00-15:20 「地理情報と統計解析を用いた土砂災害の発生可能性の評価」

小口 高 (日本学術会議連携会員、東京大学空間情報科学研究センター教授)

15:20-15:40 「家や工場を建てる際には水害地形図で事前の検討を」

春山 成子 (日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)

15:40-16:00 「防災・減災につなげるハザードマップの活かし方ー地理学の視点ー」

鈴木 康弘 (日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授)

16:00-16:20 「ハザードマップの展開：最新情報と普及の実際」

寶 馨 (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授)

(休憩)

16:30-16:55 ディスカッション

【司会】村山 祐司 (日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授)

16:55-17:00 閉会の挨拶

奥村 晃史 (日本学術会議連携会員、広島大学大学院文学研究科教授)

(参加費 無料)

・定員 300名

・問い合わせ先 (下記へご連絡ください。)

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-2-2-34

電話：03-3403-6295 FAX：03-3403-1260

E-mail：p228@scj.go.jp

★-----☆

=====
** 日本学術会議ニュース・メール ** No.493 ** 2015/5/20
=====

+++++
◇Global Young Academy より、科学者・研究者の社会貢献評価に関するアンケート
へのご協力をお願い

◇日本学術会議共催シンポジウム「大学とグローバル化：社会科学における大学の

「国際化」を考える」(ご案内)

+++++

■-----
Global Young Academy より、科学者・研究者の社会貢献評価に関するアンケートへ
のご協力をお願い

-----■
若手研究者の国際的組織である Global Young Academy では、科学者・研究者の社会
貢献評価に関するワーキンググループを設置し、British Columbia 大学と共同で、
以下の Web サイト上にて、上述テーマに関する研究調査を目的とするアンケートを
行なっております。

博士号を持つ大学・企業・研究所等の教職員および役員向け回答ページ

<http://krs.bz/scj/c?c=216&m=22945&v=eef1d39e>

学生およびポストドクター研究員向け回答ページ

<http://krs.bz/scj/c?c=217&m=22945&v=4b7a4390>

Global Young Academy に関しては、以下をご参照ください。

公式 Web サイト

<http://krs.bz/scj/c?c=218&m=22945&v=a9212c8f>

Science 誌編集長による紹介記事

<http://krs.bz/scj/c?c=219&m=22945&v=0caabc81>

個人単位だけでなく、学科や部署など組織単位でのご参加も歓迎いたします。
ご協力いただける可能性がある場合は、是非とも以下の問合せ先にご連絡ください。

締め切りは回答状況によるため、お早めにご回答いただければ幸いです。ご協力の
ほどをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

本件に関する日本国内の問合せ先：

日本学術会議 若手アカデミー 幹事団

ec@youngacademy-japan.org

■-----
日本学術会議共催シンポジウム「大学とグローバル化：社会科学における大学の
「国際化」を考える」の開催について（ご案内）
-----■

- ・日時 平成27年5月31日（日）13:00～15:15
- ・場所 成城大学3号館
- ・共催 日本学術会議（第一部国際協力分科会）、国際社会科学団体連盟（OFSSO）、成城大学

・後援 成城大学グローバル研究センター

・開催趣旨 グローバル化があらゆる領域に影響を与える時代となった。大学もまた例外ではない。一部で新自由主義的な大学の再編が進み、かつ日本の大学では、「上からの」ナショナリスティックな指示も目立つようになった。さらに、日本では少子化に伴う大学生数の減少から、留学生に活路を見出そうとする動きも顕著である。このような現状において、とりわけ社会科学を中心とする文科系の大学は今後どのような道を思い描いていくことができるのか。いま大学に突き付けられている課題に、大学自身はどのように対応していこうとするのか。そして、大学がなすべきことは何なのか…。

こうした問いに対して、欧米の大学教育の知見、および日本よりも一足先に国際化を進めている韓国の現状を、日本の現状と比較しつつ検討しながら、大学の未来像を参加者とともに考えていきたい。これが本シンポジウムの狙いである。

・次 第

総合司会 西原和久（日本学術会議連携会員、成城大学教授、名古屋大学名誉教授）

13:00-13:05 趣旨説明

13:05-13:10 開会の挨拶

広渡清吾（日本学術会議前会長、日本学術会議連携会員、専修大学教授、東京大学名誉教授）

13:10-13:40 山口博史（都留文科大学准教授）

「誰が日本を選ぶのかーグローバル化する世界における日本の社会科学と国際学生交流」

13:40-14:10 金益基（韓国・東国大学）

「韓国における学術交流の国際化」

14:10-14:40 矢澤修次郎（日本学術会議連携会員、成城大学名誉教授、一橋大学名誉教授）

「公共財の知の空間としての大学ー学術資本主義の諸問題」

14:40-14:50 王向華 (中国・香港大学)「コメント」

14:50-15:15 ディスカッション

(事前申し込み不要：参加自由：参加費無料)

- ・定員 200 名
- ・使用言語は、日本語+英語 (プレゼンターが英語と日本語の両方を使って報告)
- ・なお、このシンポジウムは、成城大学にて 2015 年 5 月 29 日～31 日に開催の IFSSO (国際社会科学団体連盟) の第 22 回大会のなかで行われます。この IFSSO 大会全体のテーマは「グローバル化：多文化社会の創造に向けた社会デザインへの社会科学のアプローチ」です。以下の大会の HP でプログラム・会場アクセス等を見ることができます。

<http://krs.bz/scj/c?c=220&m=22945&v=777d52c0>

- ・問合せ先

IFSSO 東京大会組織委員会事務局

157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学 3 号館 西原研究室気付

Email: ifsso2015tokyo@gmail.com

★-----☆

=====

** 日本学術会議ニュース・メール ** No.494 ** 2015/5/22

=====

■-----

「EU のオープンサイエンス政策」に関する講演会の開催について

-----■

■講演概略

日 時：2015 年 5 月 28 日 (木) 17 時～18 時 15 分 (申し込み締切：5 月 26 日 (火) 12 時)

会 場：JST 東京本部 (サイエンスプラザ) 地下大会議場

プログラム：講演 (40 分)、講演へのコメント (5-10 分)、ディスカッション (30 分)

言 語：英語 (通訳なし)

共 催：科学技術振興機構 (JST)、政策研究大学院大学 (GRIPS)

講演者：Dr. Wolfgang Burtscher

(欧州委員会研究イノベーション総局副総局長)

■講演内容

「オープンサイエンス」というテーマは、グローバルな研究・科学コミュニティにおいて注目されているとともに、今後の日欧連携を考えるうえでも不可欠である。OECD、グローバルリサーチカウンシル、G7 科学技術大臣会合など複数の国際的な場においても、多角的に議論されている。

オープンサイエンス（あるいは、欧州委員会が最近まで **Science 2.0** と呼んでいたもの）とは、研究およびその組織化の手法において現在起きている変化を表す言葉である。この変化はデジタル技術により支えられるとともに、研究者コミュニティのグローバル化と成長、データの指数関数的な増大、そして重要課題を解決するというニーズにより牽引されている。

コンセプトをより精緻にするとともに政策的な方向性を探る目的で、欧州委員会は 2014 年 7 月～9 月に「**Science 2.0 : 過渡期にある科学**」と題して意見募集を行うとともに、複数のワークショップを開催した。その結果を分析した報告書が今年の 2 月に欧州委員会から公表されており、本講演においても紹介される。

欧州委員会では、すでにオープンサイエンス政策に関する多様な取り組みを、研究・イノベーションの枠組みプログラムにおいて推進してきた。世界で最も大きなファンディングの枠組みのひとつである **Horizon 2020**（2014-2020 年）においても、その支援を受けた全ての出版物をオープンにするという原則を貫いてきた。そのうえ、研究データへのオープンアクセスに関する野心的な取り組みも進められている。

データ、結果、成果の公開性を高めることで、科学をより生産的にし、再現可能性を高め、透明性を高めつつ説明責任を果たすことができるようになる。このかつてないほどに開かれた研究の取り組みにより、今後科学的な取り組みがさらに鼓舞されることは確かだと考えられる。

■講演者について

Dr. Wolfgang Burtscher は、欧州委員会研究イノベーション総局副総局長である。EU の研究・イノベーション枠組みプログラムの方針決定および運営の責任を担い、現在は **Horizon 2020** の策定や改善に深く関わっている。法律学の博士号とともに欧州国際大学院（**IE HEI**）における学位を取得している。2000 年より欧州委員会農業・地域開発総局の農業法制部長を務め、2009 年より現職。

■お申し込み・お問い合わせ

以下のサイトよりお申し込みください。

<http://krs.bz/scj/c?c=224&m=22945&v=8cc0183b>

なお、会場の収容人数の関係でお断りする可能性がございますことをご了承ください。

■アクセス

住 所：東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

JR 市ヶ谷駅より 徒歩 10 分

市ヶ谷駅（都営新宿線、東京メトロ南北線・有楽町線） 3 番口より 徒歩 10 分

■問合せ先

科学技術振興機構（JST）

Tel： 03-6261-0800、Mail： i2yamashita@jst.go.jp

★-----☆

日本学術会議では、Twitter を用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報の Twitter のページはこちらから

<http://krs.bz/scj/c?c=225&m=22945&v=294b8835>

☆-----★

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://krs.bz/scj/c?c=226&m=22945&v=1ca63e66>

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://krs.bz/scj/c?c=227&m=22945&v=b92dae68>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34